

# 鳥取の教育のために尽くしたい

## 石原太一館長にインタビュー



石原太一館長

今回は、この春からスタートした倉吉鴨水館の初代館長に就任された、石原太一館長にお話を伺った。

館長を引き受けた理由

石原館長は、高3のフォーラムで教育問題を扱ったのをきっかけに「鳥取の教育

を何とかしたい」という思いを強く持つようになった。その後、東京大学工学部に進学され、卒業後は「今でしょ！」でおなじみの東進ハイスクールに就職された。理系なのになぜ予備校に・

「と思われるかもしれないが、やはり教育問題への関心と同時に、人との関わりや、それを通じて自分も変わっていきたいという気持ちが強くなった。そんな時、牧校長先生から直々に「倉吉鴨水館に力を貸して欲しい」と頼まれた。「いつか



インタビューの様子

鳥取の教育の役に立ちたい。地方と都会のギャップを埋めるために力を尽くしたい。そんな思いで迷いなく館長を引き受けられた。引き受けたからには、結果を出すと同時に、生徒の進学後も見据えた人間力を育成し

ていきたい。大学進学は、PTLではなく通過点である、と熱く語られた。

高校時代の思い出  
高校時代は、人が面倒くさいと思うことを積極的にしようと考え、生徒会長、学園祭実行委員長などをしてきた。印象に残っている先生は牧校長先生、名越先生、三谷先生、河本先生、米村先生などである。

プロフィール  
趣味はドラムで、大学生時代にはバンドを組んで、スピッツ、ジュディマリなどをコピーしていた。健康作りのため、倉吉の自宅から自転車通勤をされている。1985年生まれ27歳。

## 友情で応援団長に立候補 すぎもとかずや 杉本和也さん(3-5)

### 話題の人 第15回

今回は、4月の応援歌練習を応援団長として引っ張った杉本和也さんにお話を伺った。



未来を見据える杉本さん

団長になろうと思ったきっかけは、小学校からの深い仲である野球部の親友・T君を、甲子園で団長として応援したいと思ったからだ。しかし、団長として活動している中で東高全体を盛り上げていきたいと強く思うようになった。

団長になってよかったと思うことは人をリードしていく力がついたことだ。

応援団員の指導の際に、きびしさの加減が難しかったという。「この指導力を学園祭に生かしたい」杉本さんは翠嵐のチームリーダーでもある。チームリーダーとしてチームをまとめ、最高に盛り上がる学祭にしたいという決意を語ってくれた。1年生は団長という怖いイメージがあると思うが、とても気さくで面白い方なので、学祭ではぜひ団長とは違う杉本さんに期待してほしい。

ところで、1年生は応援歌練習の最後にアメがなかったことに疑問を抱いたのではないのだろうか。それは、先生方と団員の話し合いで、「緊張感を持続するために厳しいままで終わろう」ということになったからだそう。

ここで、杉本さんの素顔を紹介しよう。好きな食べ物はカレーライスで、「甘口が好き」という可愛い回答だった。好きな芸人は、ナイナイのやべっち。将来の夢は学校の先生になること。最後にみんなに一言！「今年の野球応援では、最高の応援をして少しでも野球部の力になりたいと思います。応援団としての誇りを胸に、しっかり率いていきたいです。この夏はみんな野球応援に行きましょう!!!」

## プール改築グラウンド改修完成

今年新たにプールが改築され、グラウンドにはタータンの走路が新設された。東高の歴史に残る大工事の背景を探るべく、宗元事務次長にお話を伺った。

漏水のためプール新設  
プールの補修を行った理由は漏水である。昨年まであったプールは、建設から40年以上が経っており、老朽化が進んでいた。コンクリートに大きなひびが入っていて、漏水だけでなく、怪我をする危険も出てきた。これを解決するために新たなプールが作られた。

25mプールにした理由は以前は50m公認コースでの大会が本校でも行われていたが、東山プールなどで大会が行われるようになり、本校を公式大会で使用する機会が減ったためである。空いたスペースは22台駐車可能な駐車場となった。プールの特徴は更衣室が出来たことである。以前は体育館の更衣室を使用していたが、プールの近くに移動が少なくなった。水深は深い所で1.4mで、背が低い人にもありがたい設計になっている(笑)。ちなみに工事費用の総額は1億6千8百万円である。

シャワーを両サイドに  
プール新設にあたってのコンセプトは「男女の接触をなるべく避ける」である。そのためにシャワーを両サイドに完備し、水泳の授業では真ん中のコースを開け男女の接触を避けるようにコースを9レーンにした。ここで1つ豆知識。実は、プールの水は「井戸水」なんです！経済的にも優しくていいですね。だから夏は冷たいんです。

### 一部芝生化も計画

グラウンドにタータンが新設された理由は、校庭の拡張に伴う施設整備である。グラウンド西側の空き地は、以前は倉吉市の土地であったが、県に所有権が移され



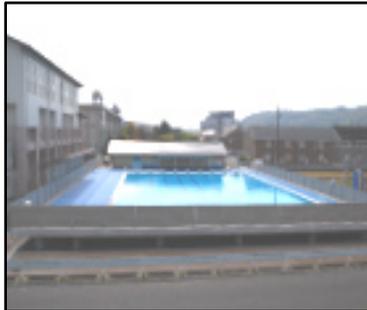
タータンを走る陸上部

ることになり、東高に編入された。そして、グラウンド拡張の際に、タータンを新設しようということになった。本校の陸上部は昨年の高校総体で女子が総合優勝するなど、活躍が目覚ましいが、雨の後に練習が出来なかった。これでは生徒の力が伸びないと考え、予算を獲得していただいた。ちなみにタータンは東高だけではなく、県内では中央育英高校、倉吉総合産業高校、八頭高校などの陸上の強豪校にも設置されている。

トラック横には走り幅跳びのピットもあり、近々高跳びのマットも買い替える予定である。将来はタータン横の敷地は芝生化され、足に優しい環境となる。陸上部の加藤研三くんは、「支援してくださる方々の気持ちを感じて走っている。総体に向けて皆の調子が上がってきた。感謝の気持ちも込め、大会ではいい結果を残したい」と意気込んでいた。新しいプール・タータンが使える喜び、また支援してくださる方々に感謝の気持ちを含め大切にしたい。



女子側サイドのシャワー



プール全景(土手より)